

入金及び地方債が減少し、歳出では人件費、投資的経費が減少したため、昨年に引き続き減少となっている。

平成 19 年度決算では、扶助費及び投資的経費の増加により全体として増加となった。

平成 20 年度決算では、歳入では市町村税、地方交付税等は増加したものの、地方債等が減少し、歳出では、人件費及び投資的経費が減少したため、2年ぶりの減少となっている

第 2 表 決算規模の推移

(単位：百万円、%)

年度	歳入	増減率	歳出	増減率
11	1,892,464	2.5	1,831,572	3.1
12	1,797,515	△ 5.0	1,727,858	△ 5.7
13	1,832,155	1.9	1,763,821	2.1
14	1,807,724	△ 1.3	1,743,967	△ 1.1
15	1,819,446	0.6	1,754,534	0.6
16	1,816,688	△ 0.2	1,754,802	0.0
17	1,815,238	△ 0.1	1,750,054	△ 0.3
18	1,800,714	△ 0.8	1,739,630	△ 0.6
19	1,829,788	1.6	1,769,600	1.7
20	1,828,931	△ 0.0	1,755,937	△ 0.8

### 第 3 節 決算収支

歳入総額から歳出総額を差し引いた額（形式収支）は、729 億 94 百万円となり、前年度に対し、21.3%の増加となった。また、歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を控除した実質収支は、446 億 44 百万円となり、前年度に対し 9.8%の減少となった。

#### (1) 形式収支

形式収支は、全 56 団体で黒字であった。

#### (2) 実質収支

実質収支は、昭和 51 年度以降、全団体で黒字となっていたが、平成 18 年度に千葉市が赤字となった。平成 20 年度は全団体で黒字であった。

#### (3) 実質収支比率

実質収支比率（＝実質収支／標準財政規模と臨時財政対策債発行可能額の和）の県内市町村の単純平均は 5.1%で、前年度（5.5%）より 0.4 ポイント低下している。

#### (4) 単年度収支

単年度収支は、全 56 団体合計で 48 億 36 百万円の赤字で、前年度（35 億 32 百万円の赤字）に比べ 13 億 4 百万円の増加となった。赤字団体の数は、前年度と同じ 34 団体（23 市 11 町村）となった。

#### (5) 実質単年度収支

実質単年度収支は、全 56 団体合計で 115 億 13 百万円の赤字で、前年度（148 億 81 百万円の赤字）に比べ 33 億 68 百万円の減少となった。また、赤字団体の数は、前年度（36 団体）よりも 11 団体減少し 25 団体（21 市 4 町村）となった。